

力努めて居り市民も忠實に政府の命令には服従して呉れる。かくて日本側の第三回目の企圖を無効ならしむる爲市民側では平靜と秩序正しく官邊側では民衆保護に有効適切な方法を講じ前線にある者も銃後にある者も抗戰意識を捨てず失地回復を念とせねばならぬ。斯くの如きは何處に於ける民族闘争に於ても不思議な事には非ず。

支那軍部ポークスマンの談話によれば「京漢鐵路と漢水との中間地區に於て支那軍を包圍せんとした日本軍の企圖は完全に失敗に歸した。揚子江北岸の日本軍の主力は四ヶ師團の兵力で兩翼包圍陣形を取り安陸桐柏に北上、尙も南陽目指し進まんとした。日本軍騎兵は漢水一帯を一掃し新葉を奪ひ唐河をも占領するに至つたが、忽ち支那軍の爲奪回され結局三千の死傷を出して退却するに至つた。唯小部隊の日本軍は襄陽に進んで居るが要衝を奪ふ事も漢水渡河も出来ぬ状況にある」と。又外國觀戰武官の説によれば「日本の軍略は支那軍の主要根據地南陽を攻めてから次に隴海平漢兩鐵路の交叉點鄭州を占領せんと企ててゐる」と。軍部ポークスマン曰く、「日本軍は山西省南部の孟津附近の村落を占領せんと企てて居るが之は鄭州の西方に於て黄河の渡河を行ひ開封南陽孟津の三地點から隴海線並びに西安を襲はんと企圖してゐるからである」と。

極秘

内閣情報部五・一九 情報第四號

成都中央通信社國際放送（十六日）（臺灣總督府交通局遞信部聽取）

重慶發

(1) 蔣介石は最近一週間に亘り開催された物資増産會議ノ席上に於て試みた演説中非常時物資生産の對策に關し説述する所ありしが本日其内容が詳細發表された、蔣は戦線の後方に於ける生産増加が前線に於ける抗戰同様重要問題なる點を強調して左の如く述べた

余は増産會議の指導的原則として下の六點を擧げんとす

第一資金を中央化して増産を計劃すること、第二軍事行動が繼續する限り總ての産業に國防を中心として進展せらるべきものなること、第三固有産業の發展を期し國家經濟に自給自足の基礎の上に確立すべく努力すること、第四國産品の品質向上を期する爲科學並に技術的方面の研究を奨励すること、第五産業資本充實の爲國民の節約を勵行すること、第六勞資の融合團結を圖ること

以上六點は増産策の根幹を成すものであるが余は別に外國資本の投下されんことを希望する、尤も時代の變遷に伴ひ往時の如き廣範に亘り外國資本を輸入することは困難となるが我等は勉めて之を誘致すべきであると同時に自力に依り復興を進捗せしめねばな

らぬ。又在外華僑資本家の歸國を促し彼等に政府の援助と保護を與へることを了解せしめて後方に於ける復興事業に投資を勧誘することも肝要である、要するに富國強兵は我等の理想にして物質的復興、國民の勤勉努力及節約は我國民精神總動員の基礎を形成するものである、而して最後の勝利と國家の再生は物質的復活と國民精神總動員とが混然合體して不備の點を相補ふことにより達成されるのである。

(ロ) 外交部長王正廷は本月十二日紐育に於て同地駐在領事ジエームス、僉が多數の名士、上院議員、同夫人等を招待して開催した晚餐會宛左の謝辭を寄せた

我等は國家の存立の爲抗戦しつつある秋に當り貴國民が我國に對し理解と同情を寄せられたるを深謝す、余は此機會に於て我國民個々の胸中に燃ゆる國家の獨立と自由の焔は鎮火することなきを敢て諸士に告ぐ、惟ふに米支間の友好的關係より觀て米國の外交政策は二つの踏石を以て表顯されてゐる、其一は前國務長官ジョン、ヘー氏の確立せし門戸開放主義にして他の一はスチムソン氏の非承認政策である、我等は米國が此光輝ある歴史に更に侵略政策には加擔せずとの宣言を追加せんことを要望する。

内閣情報部五・一九 情報第五號

一 桑港英語放送 (十六日) (東京都市遞信局聴取)

(東京) グルー駐日大使は日本軍の重慶爆撃に關し先日日本政府へ抗議提出中であつたが、これに對し日本政府は次の様に回答した。

日本軍飛行機は爆撃にあつて軍事施設のみを目標としてゐる。重慶の軍事施設は日本軍の爆撃の目標であつた。非戦闘員を傷ける様には十分の訓練が發せられてゐる。重慶には約百名の米人が在住してゐる。

二 (ロンドン) ヨーロッパ平和維持を目的とする英ソ協力に關する英國の提案に對しソ聯側の回答は昨日送達されたが其の内容については次の様に傳へられてゐる。英佛のポーランド、ルーマニア録證にソ聯が援助した場合同様ソ聯の西部國境諸國にも英佛の共同保證を要求する。

三 (パリ) ボネ佛外相はロンドンにて英外相とフランス、トルコ交渉につき意見の交換をした。フランス、トルコ兩國間の懸案であるサンジャクをトルコに返還する問題、シリアトルコの國境線問題等につきフランスはトルコの要求に應ずる事となり近く兩國間に相互援助宣言が行れる模様である。フランス、トルコの接近は東地中海よりファツシスト艦隊